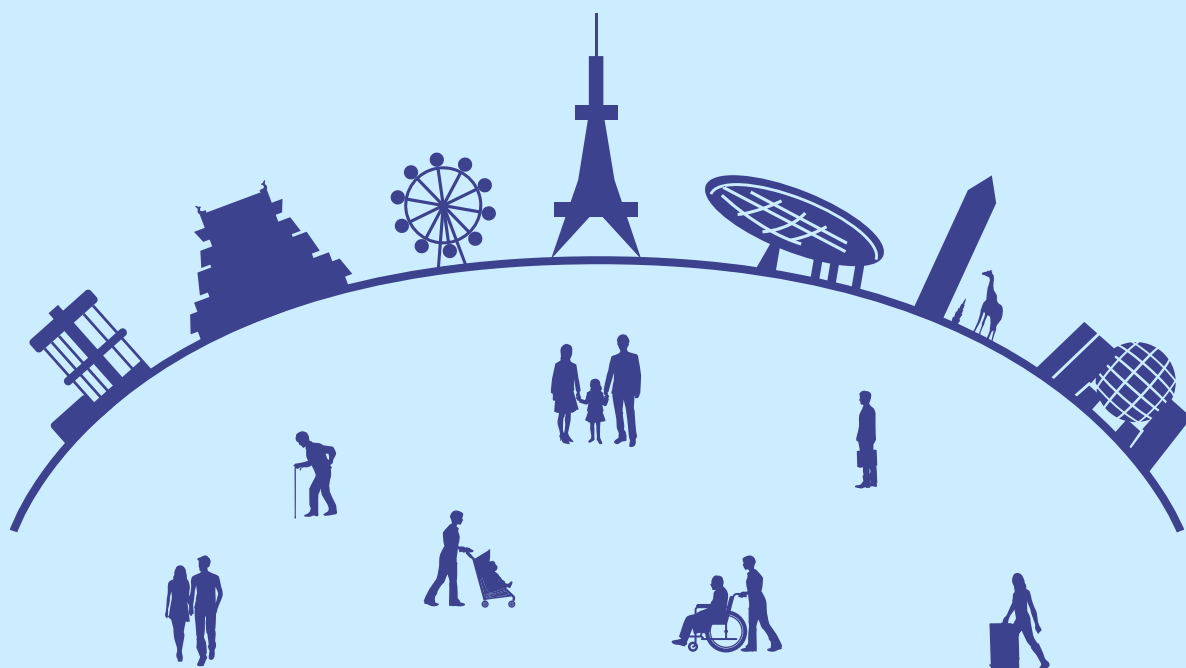


名古屋市営交通事業 経営計画2023

概要版



平成31年3月
名古屋市交通局

計画策定の趣旨

この計画は、経済状況や人口構造の変化などの社会経済情勢の動向をふまえて、今後想定される様々な課題に的確に対応しながら、より快適で便利な輸送サービスを提供していくため策定するものです。

計画の理念

「新たなステージへ」

私たち名古屋市交通局は、安全最優先のもと、快適さ、便利さを積極的に高めることにより、誰もが安心して利用できる市バス・地下鉄を目指します。

計画期間

**2019 (平成31)年度から
2023 (平成35)年度までの
5年間**

長期的展望にたった収支計画は、2028(平成40)年度までの10年間とします。

課題及び施策

市バス・地下鉄事業に大きな影響を与える、少子化・高齢化のさらなる進行、大規模地震などの自然災害の懸念、訪日外国人旅行者数の増加など、交通局を取り巻く状況をふまえ、主要課題を整理するとともに、それらに対応する重点施策を取りまとめました。

主要課題

- ・安全の確保
- ・自然災害への備え
- ・計画的な維持管理
- ・快適性の向上
- ・移動しやすい環境の整備
- ・誰もが利用しやすい環境の整備
- ・まちづくりと連携した交通施設の整備
- ・効果的な利用促進策の展開
- ・人材の確保・育成
- ・経営基盤の強化

重点施策

- 施策1
安全・安心の推進
- 施策2
快適・便利の向上
- 施策3
まちの活性化への貢献
- 施策4
安定した運営基盤の確立

施策 1

安全・安心の推進

お客さまに、安全・安心にご利用いただける市バス・地下鉄にするため、安全対策の強化、自然災害への備え及び計画的な維持管理を進めます。

■安全対策の強化

○ 輸送の安全に関する研修等の実施

市バス・地下鉄の乗務員、駅職員、技術職員などに、必要な知識や技能を、取得、維持させるため、外部研修機関も活用して、研修等を実施します。

また、市バス運転士個々の特性に応じた指導・教育を充実し、安全運転行動の向上等を図るため、外部研修機関の交通心理士資格を有する講師を招いた実技研修を、新たに実施します。

○ ドライブレコーダーの機能強化

バス車両の更新等にあわせて、ドライブレコーダーのカメラを解像度の高いものに更新するとともに、事故発生時の状況確認が難しい左後方にもカメラを増設するなど、ドライブレコーダーの機能を強化します。

○ バス車両への安全確認放送装置の設置拡大

自転車利用者や歩行者との接触を防止するため やさしい音色とアナウンスで市バスの接近を周囲に知らせることができる安全確認放送装置を、順次全車両に設置します。

○ 可動式ホーム柵の整備

ホームにおける安全性の向上を図るため、名城線・名港線において定位置に車両を停止させるための車両改造等を行い、可動式ホーム柵を設置します。

また、鶴舞線可動式ホーム柵の整備に向けて検討し、整備方針を策定します。

○ 駅構内カメラの機能強化

駅ホームでの安全対策を強化するため、駅ホームカメラの録画化を順次進めます。また、駅施設の安全利用上必要な個所については、新たに駅構内カメラを設置します。

- ・ 災害・危機対応力の向上
- ・ 災害の発生に備えた情報発信の強化
- ・ 運輸安全マネジメントの推進
- ・ 市バス・地下鉄マナー啓発



ドライブレコーダーの解析画面の画像



名城線・名港線 可動式ホーム柵（イメージ）

※ ◎は新規事業、○は拡充事業、・は継続事業

■ 自然災害への備え

- ・ 地下鉄構造物の耐震補強
- ・ 駅出入口止水板の改修

■ 計画的な維持管理

◎ 第2栄変電所の移設

現在、地下に設置している第2栄変電所は、地上部への搬出入口がなく、機器の搬出入を地下鉄のトンネルを使って行う必要があり、災害時等の復旧に時間を要することから、変電設備の更新時期にあわせて旧名城工場跡地に移設します。

- ・ 地下鉄構造物の長寿命化
- ・ 地下鉄電気設備の更新
- ・ エレベーター・エスカレーターの更新
- ・ 地下鉄車両の主要電気機器更新



第2栄変電所の変電設備

施策2

快適・便利の向上

お客さまに、より快適で、より便利にご利用いただける市バス・地下鉄にするため、地下鉄駅等のリニューアル、人にやさしい環境づくり及びわかりやすく利用しやすい環境づくりを進めます。

■ 地下鉄駅等のリニューアル

◎ 地下鉄駅のリニューアル

地下鉄開業から60年以上経過していることや、明るく清潔感のある快適・便利な駅空間を提供するため、開業後50年以上経過した駅について、駅全体の壁・床・天井・照明などを、順次リニューアルします。特に、主要駅については、名古屋の顔としてふさわしい駅となるよう個性化を図ります。

また、地下鉄駅のリニューアルにあわせて、駅施設の再配置や店舗等の設置についても検討します。



地下鉄駅のリニューアル（イメージ）

◎ 駅構内トイレのリニューアル

訪日外国人、高齢者をはじめ、誰もが快適にご利用いただくため、全ての便器の洋式化、全ての駅への温水洗浄便座の設置、ご利用の多い駅及び観光施設最寄り駅のトイレ内装改修などを順次実施します。



駅構内トイレ

◎ バスターミナルの環境改善

快適なバス待ち環境づくりのため、照明のLED化やベンチの設置、上屋の塗装替えなどを実施します。また、ドライ型ミスト装置を試行設置します。



バスターミナルの環境改善（イメージ）

○ 地下鉄駅ホームの冷房化の推進

お客さまに地下鉄を快適にご利用いただくため、整備手法について検討し、順次駅ホームの冷房化を進めます。

- ・ わかりやすい案内サインの整備
- ・ バス停留所施設の整備・改修

■ 人にやさしい環境づくり

◎ ホームと車両の段差・隙間の解消

名城線・名港線において、車両床面とホームとの間に大きく段差が生じている駅があることから、車いす利用者をはじめ誰もが乗降しやすくするため、可動式ホーム柵の設置に引き続き、ホームのかさ上げを行うほか、ホームと車両の隙間解消を実施します。

○ エレベーターの整備

駅施設のバリアフリー化を推進するため、2つの路線が交差する駅のうち改札内でエレベーターによる乗換えができない駅のエレベーターを整備します。

また、交差駅で地上へのエレベーターが1つしかなくその位置が偏っている駅について、利用実態をふまえて新たに整備します。さらに、その他の駅についても利用実態の調査を行います。



地下鉄駅改札内乗換エレベーター

○ 地下鉄車両の更新

鶴舞線車両について、車いす（ベビーカー）スペース、液晶式車内案内表示装置及びLED照明を備えた車両（N3000形）に順次更新します。また、セキュリティーの向上を図るため、新たに設計する車両に車内カメラを設置します。

- ・ 使いやすいつり革の設置
- ・ エスカレーター音声案内装置等の整備
- ・ バス車両の更新
- ・ 次世代自動車導入の検討
- ・ 蛍光灯のLED化



鶴舞線地下鉄車両（N3000形）

■ わかりやすく利用しやすい環境づくり

◎ 地下鉄運行情報提供大型モニターの導入

地下鉄及び他社線の遅延や運転見合わせ、振替輸送などの運行情報を、誰にもわかりやすく提供するため、画像や多言語で表示する大型モニターを、主要駅の改札口付近等に設置します。



地下鉄運行情報提供大型モニターの導入（イメージ）

◎ 旅行者向け券売機の導入

市内の観光スポットに不慣れな国内外からの旅行者などが、安心して地下鉄で移動できるようにするため、観光スポット、駅番号などからの検索により乗車券を購入できる機能などを備えた券売機を主要駅に設置します。



◎ 地下鉄券売機の多言語化

訪日外国人の利便性向上を図るため、すべてのマナカ対応の券売機について、英語に加え、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に対応した券売機に改修します。



地下鉄券売機の多言語化（イメージ）

◎ 液晶式車内案内表示装置の多言語化

訪日外国人の利便性向上を図るため、地下鉄車両の液晶式車内案内表示装置の次駅名や行先表示部分について、英語に加え、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に対応します。



液晶式車内案内表示装置

◎ 地下鉄一日乗車券の24時間券化

名古屋に宿泊される旅行者などに、より便利にご利用いただくため、地下鉄の一日乗車券を24時間券化します。

○ バス車内への液晶式停留所名表示器の設置拡大

市バスに不慣れな方にも安心してご利用いただくため、ピクトグラムを活用した乗換案内、4つ先までの停留所名を表示する経由地案内など、わかりやすい案内が行える液晶式停留所名表示器を順次設置します。



乗換案内



バス車内の液晶式停留所名表示器



経由地案内

○ バス停留所へののりば番号等の表示

ウェブサイトやテレホンセンターなどで、お客さまが目的とするバス停留所をわかりやすく案内するため、同一名称のバス停留所に、区別できるのりば番号などを表示します。



バス停留所ののりば番号
(バス停標識ごとに番号を表示)

○ 地下鉄駅の旅客案内表示装置の更新

案内情報の充実、見やすさ・わかりやすさの向上を図るため、名城線・名港線の改札口やホームに設置している旅客案内表示装置について、カラー液晶式で多言語表示できるものに更新します。



地下鉄駅の旅客案内表示装置の更新（イメージ）

○ タブレット端末の全駅配備

訪日外国人や聴覚に障害のある方などに外国語での対応や、音声、文字、画像でご利用案内等を行うため、これまで主要駅のみにも配備していたタブレット端末を全駅に配備します。

- ・ コンシェルジュの配置
- ・ マナカの利便性向上
- ・ キャッシュレス化の検討

施策3

まちの活性化への貢献

拠点エリアの駅機能強化や、効果的な利用促進策の展開を通して、名古屋のまちの活性化に貢献します。

■ 拠点エリアの駅機能強化

◎ リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅の整備

リニア中央新幹線の開業に向けて、名古屋の玄関口にふさわしい地下鉄駅となるよう、ゆとりある地下広場の確保や先まで見通せるわかりやすい歩行者動線を形成するために、駅施設の再配置などを進めます。



リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅の整備
（地下広場空間のイメージ）

出典：名古屋駅周辺交通基盤整備方針（名古屋市）

◎ 主要駅の混雑緩和対策の検討

(名古屋駅)

東山線名古屋駅の混雑緩和を図るため、新幹線など他社線からのわかりやすい乗換案内表示の設置等による桜通線の利用促進策を検討するほか、東山線の利用実態調査等を行い、分散化するための方策について検討します。

(栄駅)

東山線栄駅のホームや名城線との連絡階段の混雑緩和を図るため、利用実態等を調査するとともに、ホームの拡張、改修などの機能強化について検討します。

(金山駅)

金山駅の混雑緩和を図るため、地下鉄駅のリニューアルにあわせて、駅長室、駅構内店舗等の再配置について検討します。

■ 効果的な利用促進策の展開

◎ バスの乗り方教室の開催

運転免許証を返納した高齢者などを対象に、料金の支払い方法をはじめ、車内事故に遭わないための乗り方など、バスの乗り方教室を開催します。あわせて、市営交通の便利な使い方についてPRを実施します。

○ 効果的な駅ナカ事業の展開

地下鉄利用者の利便性及び駅の魅力向上を図るため、伏見駅において、多数の店舗を一体的に展開する駅ナカ商業施設をオープンするほか、次期駅ナカ事業の実施について検討します。

○ 戦略的な情報発信

観光やビジネス目的の旅行者などの特性にあわせ、交通局のイメージアップやお出かけ機会の創出を図るため、SNSをはじめ様々な媒体を活用して、市バス・地下鉄沿線地域の魅力を発信するなど、戦略的な情報発信を実施します。



効果的な駅ナカ事業の展開
(伏見駅ナカ商業施設(イメージ))

○ 「なごや乗換ナビ」における検索機能の充実

利便性向上による利用促進を図るため、「なごや乗換ナビ」に、観光地を紹介するウェブサイト等と連携することで、観光者向け施設や店舗の情報から目的地を設定し検索できる機能(日本語及び英語に対応)を追加します。

- ・ イベントの実施
- ・ 企画乗車券の発売
- ・ ハッチキッズクラブの運営
- ・ 効果的な乗客誘致施策の検討
- ・ 企業・大学・地域・他部局等との連携

施策4

安定した運営基盤の確立

将来にわたって安定的に交通サービスを提供し続けていくため、人材の確保・育成や、経営基盤の強化を進めます。

■人材の確保・育成

◎ 安定的な人材確保のための取り組みの実施

現在、採用時に適用している嘱託職員制度を終了し、一般職としての採用へと見直しを行うほか、採用に際して、より応募しやすい方法の検討を行い、安定的な人材確保に努めます。

◎ 働きやすい環境づくり

職員一人ひとりがモチベーションを向上させ、能力を最大限に発揮でき、いきいきと働けるようにするため、女性施設の拡充、休憩室の改良等の施設整備を行うとともに、職員の心身の健康を守るための取り組みを実施するなど、働きやすい環境づくりを推進します。

◎ 制服の機能性向上

制服の機能性を向上させ、業務をより安全・快適に行えるようにするため、制服をリニューアルします。

- ・ 接客サービス向上のための取り組みの実施
- ・ 各種コンクールの実施

■経営基盤の強化

○ 資産の有効活用

旧名城工場跡地については、資産の有効活用による利益の最大化と、名古屋城周辺のにぎわいづくりへの寄与の両方の目的の実現を図るため、民間事業者に貸し付け、活用を図ります。

また、お客さまの多様なニーズに応え利便性を向上させるために、駅の特性に応じた店舗の増設などで 収入の拡大に努めます。



資産の有効活用（地下鉄駅構内店舗）

- ・ 広告料収入の確保
- ・ 市バスの管理委託の拡大
- ・ 地下鉄のワンマン運転化の拡大
- ・ 市バス事業の経営基盤強化



広告料収入の確保
(栄駅スクエアビジョン広告)



市バス

計画目標

- ・ 2023（平成35）年度に1日あたり36万人の乗車人員
- ・ 経常収支の黒字を確保
- ・ 債務超過を解消

収支計画

(単位 億円)

区分	2018年度 (平成30)	計画期間					計画期間後				
		2019年度 (平成31)	2020年度 (平成32)	2021年度 (平成33)	2022年度 (平成34)	2023年度 (平成35)	2024年度 (平成36)	2025年度 (平成37)	2026年度 (平成38)	2027年度 (平成39)	2028年度 (平成40)
乗車人員(千人/日)	354	355	357	359	361	363	363	364	364	364	363
経常収支	10	6	6	6	6	7	6	6	8	9	9
累積欠損金	335	327	321	315	309	302	296	290	282	273	264
債務超過額	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2019（平成31）年度から2023（平成35）年度の5年間に約100億円の投資（建設改良費）を予定しています。



地下鉄

計画目標

- ・ 2023（平成35）年度に1日あたり137万人の乗車人員
- ・ 実質資金不足額を平成30年度比で840億円以上削減
- ・ 累積欠損金を平成30年度比で600億円以上削減

収支計画

(単位 億円)

区分	2018年度 (平成30)	計画期間					計画期間後				
		2019年度 (平成31)	2020年度 (平成32)	2021年度 (平成33)	2022年度 (平成34)	2023年度 (平成35)	2024年度 (平成36)	2025年度 (平成37)	2026年度 (平成38)	2027年度 (平成39)	2028年度 (平成40)
乗車人員(千人/日)	1,332	1,335	1,344	1,350	1,359	1,367	1,369	1,371	1,374	1,374	1,374
実質経常収支	98	83	84	90	87	96	100	96	96	92	89
累積欠損金	2,154	2,027	1,910	1,790	1,682	1,545	1,407	1,277	1,150	1,031	918
実質資金不足額	2,048	1,917	1,752	1,580	1,401	1,201	1,045	827	598	364	134

2019（平成31）年度から2023（平成35）年度の5年間に約800億円の投資（建設改良費）を予定しています。



- 計画の詳細は、交通局ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.kotsu.city.nagoya.jp/>

名古屋市交通局営業本部企画財務部経営企画課
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-3812 F A X 052-972-3938